

2 助成対象のまちづくり活動を行ったふりかえり

申請書に記載の活動の「目的、目標、計画」に基づきふりかえりをご記入ください。

(1) 目標達成(目標を達成できたか、達成できなかったものがあればその理由)

[小冊子]

今年度、一番の目標にしていた大門の喫茶店を紹介する小冊子を完成することができた。店舗の選定、取材、撮影からデザインまで行い、A5サイズの小冊子を2,000部印刷した。

[地元の人以外は入りにくいお店を楽しむツアー]

2回開催できた。本来の予定であれば年末にもう1回開催する予定であったが、小冊子の製作に集中していたため開催を見送ることにした。ただ、過去の参加者を通じて友人グループでの開催依頼があり、まち歩き案内やビリヤード体験、喫茶店巡りを行う機会が増えてきているため、ツアー開催の効果は徐々に出てきていると感じる。

[マルシェ]

新型コロナの感染拡大の影響を考慮して開催を見送った。見送った大きな理由は、マルシェ出展者に山間部の田舎町の人たちを呼ぶ予定だったが、みなさん高齢者ということもあり、8月に感染者の多い名古屋に呼ぶのを躊躇したためである。

[缶バッジ]

大きなイベントが開催できなかったため、小冊子を配布する際に希望するお店などに提供した。デザインは、小冊子と同様に名古屋造形大学の学生にデザインしてもらった。

(2) 活動の成果(参加者や地域住民の評価、活動を通して得られた成果など)

約2年間の活動でお店の店主との仲が深まり、お店に関わる悩み相談などを受けることが増えた。今年度は原材料費の値上げなどでランチ代などを値上げするか悩んだ店主が多く、客目線での意見を聞きたいなど、良い関係ができていなければ聞くことがない話を聞けるようになった。

活動中に閉店してしまった喫茶店もあったが、逆に定期的に訪れる新しい客が増えたことで元気が出て、もう少し頑張ろうと思ってくれるお店もあるので、大門 DIVE!の活動は有意義なものになってきていると思う。

[小冊子]

完成度の高さから協力いただいたお店には喜んでいただけた。現在、中村区役所や、大門地域以外のお店に置いていただくなどの配布活動も行っているため、春から冊子を見て大門を訪れる人が増えるのではないかと楽しみにしている。

[地元の人以外は入りにくいお店を楽しむツアー]

ツアーでは、ビリヤードを気に入る参加者が多くリピーターや次回の開催日を問い合わせしてくる方も出てきているので、大門の訪問者増加に貢献し始めていると実感している。

(3) 活動における工夫(活動の目標達成のために工夫した点など)

[小冊子]

製作にあたり、安心して取材を受けてもらえるようにお店に何度も通い、お店の店主に自分たちをよく知ってもらうことに努めた。代表の増渕の人脈で、今回協力していただいた名古屋造形大学の江津匡士准教授と、情報表現領域ソーシャル・クリエーションゼミの学生たちと繋がることができた。メンバーの田籠は、これまでにフリーペーパーを製作してきた経験から学生に的確なアドバイスを与えた。これらのことは、小冊子の完成度向上につながった。

また、広い世代に手にとってもらおう工夫として、名古屋造形大学の学生に製作協力してもらった。大門 DIVE!の中心メンバーの年齢が40歳以上ということもあり、小冊子のデザインが時代遅れのものになるのを危惧し、デザイン案は学生の意見を積極的に取り入れた。また、学生に街を知ってもらうため、まち歩きを6月28日から複数回行い、地元の人以外は入りにくいお店を楽しむツアーにも参加してもらいながら地域の個性と一緒に深掘

りしていった。その結果、冊子の一方から開くとレトロ喫茶、反対から開くと新しいお店という大門地域の現在の特徴を上手に表現する個性的な構成になった。

[地元の人以外は入りにくいお店を楽しむツアー]

前年度の開催経験からビリヤード体験を中心に構成した。ビリヤードは、20代はほとんど経験がなく、40代以降は学生時代に経験している人が多かったため、新鮮だったり懐かしかったりとみんな夢中になることがわかった。この発見は、様々な世代と一緒に楽しめるイベントづくりに繋がった。ツアーの構成は、ビリヤード体験前に喫茶店などでランチをし、ビリヤード体験後はまち歩きをしつつ駄菓子屋で買い物をしたり、また喫茶店でスイーツを楽しんだり、参加者の興味に合わせてその都度変更した。

(4) 活動の改善点(課題や反省点と、それを踏まえ今後の改善などを具体的に)

今年度も、新型コロナの影響を少なからず受けた。メンバーの周囲でも度々感染者が出て、イベントを思うように開催できなかった。新型コロナに限らず、インフルエンザなどの疾病が流行している時期に人を大勢集めるイベントは、運営が少人数では責任ある管理が難しいため、今回製作した街の魅力を紹介する小冊子などイベント以外での街への貢献の仕方考えた方が良く感じた。

課題としては、活動を街の発展時期に合わせて変更する柔軟さというものが見つかった。メンバー全員が大門に店舗を持っているわけではなく、住人というわけでもない。本来はそれが活動のメリットなのだが、大門の街が大きく変わりつつある中で、現在は大門の新住人、新店主たちが中心になって街を盛り上げる潮流になっている。そういう潮流の中、よそ者としての立ち位置、活動方法を見つめ直す必要があると感じていたのだが、メンバーそれぞれに仕事があり、また小冊子の製作に追われてしまい、なかなか良いアイデアを見つける時間を持つことができなかった。

(5) 次年度の活動計画(具体的な活動の見直しなど)

街との関わり方などを見つめ直すため、少し考える時間を作る予定。

約2年間の活動の中で、街の変化もあり、活動方針を見直した方が良く感じているが、メンバーそれぞれに仕事などの都合もある中で、関わる街だけでなく、関わってくださる人たち、そして自分たちにとって有意義な活動でありたいと思いながら、良い方法が現在のところ見つかっていない。よって、次年度は一度立ち止まり活動を見つめ直す期間と考えている。

一人では入りにくいお店ツアーは、ありがたいことに好評で認知度も徐々に上がり、次回開催予定を聞かれることもあるため、直近では3月25日の開催を含め、次年度も定期的開催する予定である。

製作した冊子は、イベント開催ごとに初参加者へ配布し、お店選びに活用してもらう。また、自分たちが何かのイベントに参加する際も他の参加者に配布できるよう持参する。

(6) 活動を進めるうえで、助成事業について改善を望むこと

お店の取材では、料理の写真撮影などで経費が嵩んでしまうため、取材費も助成費として認めてもらえるようになると来年度以降に冊子づくりにチャレンジしてみたいと考える団体の後押しになり嬉しい。

※第5号様式は、2ページにおさまるように記入してください。

※活動における実施した内容(写真やレポート、調査結果等)、経費にて作成した成果品(チラシ、冊子など配布物)を別添資料としてください。

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする

まちづくり活動の実施記録

実施記録は1ページにおさまるように記入してください。

年	日付	活動項目	活動内容	参加者数や印刷物の発行部数等
2022	6月28日	見学案内	冊子作りに協力してもらう名古屋学芸大学の生徒と大門の街を巡った	スタッフ3名 参加者5名
	7月23日	打合せ	冊子づくりのための打ち合わせ	スタッフ3名
	7月23日	イベント	地元の人以外は入りにくいお店を楽しむツアー、宝来ビリヤード体験とまち歩き	スタッフ3名 参加者4名
	8月21日	打合せ	冊子づくりのための打ち合わせ	スタッフ3名
	9月6日	打合せ	冊子づくりのための打ち合わせ	スタッフ3名 参加者5名
	9月20日	打合せ	冊子づくりのための打ち合わせ	スタッフ3名 参加者5名
	10月4日	打合せ	冊子づくりのための打ち合わせ	スタッフ3名 参加者5名
	10月11日	調査	冊子づくりのための喫茶店の調査 名古屋造形大学の学生を引率	スタッフ3名 参加者3名
	10月29日	イベント	地元の人以外は入りにくいお店を楽しむツアー、宝来ビリヤード体験とまち歩き	スタッフ2名 参加者4名
	11月1日	取材	冊子づくりのため松岡健遊館の取材	スタッフ3名 参加者5名
	11月8日	打合せ	冊子づくりのための打ち合わせ	スタッフ3名 参加者5名
	11月15日	取材	喫茶ロビン、ティーピック取材	スタッフ3名 参加者4名
	11月22日	取材	ジェミア、モンパル取材	スタッフ3名 参加者4名
	11月28日	取材	喫茶ツヅキ取材	スタッフ3名 参加者4名
	11月29日	取材	カフェオレンジ、宝来ビリヤード、みんなで駄菓子屋（仮）取材	スタッフ2名 参加者4名
	12月13日	打合せ	冊子づくりのための打ち合わせ	スタッフ3名 参加者5名
	12月23日	打合せ	冊子づくりのための打ち合わせ	スタッフ3名 参加者5名
	12月26日	打合せ	冊子の校正作業	スタッフ3名 参加者5名
	2023	1月26日	打合せ	納品された冊子の確認と大門へ報告
2月7日		打合せ	取材店舗、中村区役所へ冊子配布	スタッフ2名 参加者1名

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の決算書

1 支出

助成対象のまちづくり活動における支出をご記入ください。

費目 手引きの費目を参照	活動項目	領収書番号	金額 (円)
① 助成対象事業支出額			101,346
①の内訳	物品費	缶バッジ材料（25円/個）×150 缶バッジ装飾フィルム（10円/枚）×150	① 3,750 1,500
	消耗品費	インクジェットインク ブラック×1 コピー用紙 500枚×1	② 3,128
	消耗品費	インクジェットインク カラー×1	③ 2,418
	印刷費	お店紹介小冊子 2,000部	④ 60,550
	謝金	小冊子デザイン料謝金（15,000円/日）×2	⑤ 15,000
			⑥ 15,000
まちづくり活動助成金（申請金額） ※上限金額：1回目は5万円、2回目、3回目では10万円			100,000

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。